

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191500214		
法人名	医療法人社団 森生会		
事業所名	グループホーム温もりの家		
所在地	茅部郡森町字上台町330-12		
自己評価作成日	平成27年10月22日	評価結果市町村受理日	平成27年12月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosyoCd=0191500214-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成27年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 1、当事業所は運営母体が医療機関で隣接しているため、日頃から入居者様の健康状態について相談できる環境にあります。また、緊急時には医療機関と連携が図れる体制が整っています。
その他、毎月往診があり入居者様の健康管理を行なっております。
- 2、当事業所には常勤の栄養士を配置しており、食事の献立や栄養のバランスを考えた食事を提供しています。
- 3、当施設周辺には緑が多く、春には桜を観に出掛けたり、秋には栗拾いに出かけたり、紅葉を観に出掛けたりと四季の変化を楽しんで頂けると幸いです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、森町の市街地より3km程離れた鳥崎八景の近くの、自然豊かな所に立地している。2ユニットの平屋建てで、中央に玄関、事務室、両サイドにある居室は採光に配慮した造りになっている。近隣には母体法人の医療機関と系列のグループホーム「もりの家」があり、夏祭りなどの行事は合同で開催し、地域の方が大勢参加している。町の中心部より遠方にあるため、家族の訪問時に不便さを感じていたが、町内会の尽力で11月から路線バスの運行が実現されている。管理者と職員は町内会活動に積極的に参加して交流を図り、利用者は事業所周辺の四季折々の変化を感じながら五感を刺激し、その人らしさの維持に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し都度確認し共有している。ケア会議等を利用し話し合いを行ない、実践に繋がられるよう取り組んでいる。	「感謝の気持ち、思いやり、笑顔」を理念の柱に置き、具体的ケアについて全職員と話し合い意見の統一を図り、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への参加やボランティアの受け入れ、事業所単位ではあるが、夏祭りを開催等で地域との交流を図っている。	保育園の園児によるお遊戯や地域のボランティアの受け入れもあり、町内会の配食サービスの協力、火災避難訓練への参加を呼びかけるなど交流、連携に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の会合などに出向き、認知症についての理解をお話させて頂いたり、ご家族様に対してアドバイスを行なう等している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度開催し、活動状況や入居者様の現状等について報告し、それについて推進委員から意見やアドバイスをもらい、サービス向上に活かせるよう努めている。	行政、町内会、家族や地域からの参加を得て定期的に開催している運営推進会議は、事業所の近況報告と運営に関する意見や要望などが議論され、サービスの質の向上に活かしている。議事録は家族に郵送している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたり、包括ケア会議に出席し、情報交換や、実情についての取り組み等を伝えている。	町担当者とは、介護保険関連や規定書類の提出と運営推進会議の参加など、連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の研修会に参加し報告会等で職員全体で理解を深めている。職員会議等で個々のニーズについて話し合い、ケア方法など検討している。	身体拘束の外部研修会に参加した職員が受講後の伝達講習を実施し、職員全員が禁止の対象となる具体的な行為の把握に努め、安全を確保しつつ、自由な暮らしの支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修会に参加し報告会等で職員全体で理解を深められるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し理解は深めているが、支援に繋げられるよう、関係者との話し合いや検討までに至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、書面で重要事項説明を行ない、理解、納得して頂いた上で契約をして頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時に意見や要望を聴かせて頂いたり、アンケートの実施や運営会議の議事録を送付し意見や要望を反映出来るよう努めている。	毎月発行している「温もりの家便り」で利用者の生活状況を報告し、事業所から協力や依頼などを家族に伝えている。家族アンケートの実施や、訪問時の声かけで要望を聞く機会を設けるなど、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議等で職員の意見や提案する機会を作っている。年に一度個別面談を実施している。	職員はユニット会議の中で要望や提案の意見交換が行われ、表出された課題について全体会議で検討し、職員の気づきやアイデアを運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を取り入れた業務改善や研修の機会を確保し積極的に参加できる体制をとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部の研修会に参加できる環境を作れている。研修会後は報告会や勉強会を実施し知識や技術の向上に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各協会の会合や研修会などに参加し情報交換や実状について意見交換を行なう等サービスの質向上に取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、面談を行ない、ご本人、ご家族の思いや不安等を把握し、ご本人が安心して生活が送られるよう支援している、入居後においても思いや考えを理解しながら支援にあたっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活に対する希望や、健康上の不安や、これまでのご家族同士の関係性などもお聞きし、ご本人、ご家族も含め良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関やご本人、ご家族から情報収集を行ない、必要なサービスを見極め支援に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	午前午後とおやつや好みの物を飲みながら談笑等しながら一緒に過ごす時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	忙しいご家族や遠方の方にはお手紙で普段の様子を伝えたり、行事参加の案内を送ったり、日用品等必要になった物があれば、お願いをする等、ご本人とご家族の関係を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の商店街へ出掛けたり、行事を利用し食事をしに出かけたり、お祭り時期には積極的に参加をしている	知人や友人の訪問があり、利用者の馴染みの商店や理容院、美容院には職員が同行し、関係継続支援を積極的に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事や、おやつ作り、レクリエーション等で他者との関わりが持てるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了してからも、関係性を大切に、ご家族に來所して頂いたり、必要に応じて訪問し相談に応じている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や思いについて把握出来るよう、コミュニケーションを大切にしている。思いを表出するのが難しい方には、普段の様子などから、意向などについて話し合いの場を設けている。	契約時に生活歴を含めた情報を入手し、ご本人とのコミュニケーションをとりながら、思いや意向の把握に努め、職員は日々の行動や表情から汲み取っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴やご家族様との関係性等を聞かせていただき、継続した生活の支援に繋げている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的話し合いの場を作り、職員個々に把握している。状況や変化について検討している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議の中で課題について話し合い介護計画を作成している。ご家族の意向等は面会時等に最近の状況と合わせお聞きし、介護計画に活かしている。モニタリングは二ヶ月ごと実施し評価検討をしている。	ご本人や家族の意見や要望を取り入れ、日常の記録から全職員で検討し、現状に合った介護計画を作成している。モニタリングを2か月ごとに実施し、ケース記録に計画の実施状況を記録している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に、その日行ったケアや様子の変化等記録している。必要に応じてケア会議で検討を行なっている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに合わせて外泊支援やボランティアを活用し、臨機応変に対応できるよう努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、消防に協力してもらい避難訓練を実施したり、安全に屋外を散歩できるよう警察にも協力を依頼している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接している医療機関について説明したうえでかかりつけになって頂いている。ご本人やご家族から希望があれば、他科受診できるよう、支援している。	隣接して母体法人の医療機関があり入居開始時から、かかりつけ医となっている。月2回の往診と毎日看護師の巡回があり、夜間体制も整えている。専門外の治療は職員が同行して支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員同士の情報共有を密に、状態変化に早期に発見し、看護師に相談出来る様努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、情報提供を相互に協力し行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に終末期に向けた事業所の方針を説明し、ご家族様から意見や考えを聞いている。重度化については状態の変化に合わせてご家族様の意向を確認しながら進めている。	入居時に事業所の方針を説明し、家族の同意を得ている。職員はエンゼルケア講習会に参加し、法人医師と協力体制を整え、家族と再確認しながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	発生しに場合に備えマニュアルはあるが、実際の場面で全員が活かせるかは不安がある。今後は定期的な訓練が必要である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回消防立ち会いのもと、避難訓練を実施できている。その際は町内会と一緒に協力してもらいながら行なっている。	春、秋年2回の、防火訓練には地域の方々や法人施設からの参加があり、夜間想定も行われている。事業所として年4回、消防署の協力を得て通報と避難訓練を自主的に実施している。	今後は火災だけではなく、自然災害についての訓練と備蓄についても検討しているので、実現に向けた取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケア会議等で個々の状態や状況について情報を持ち寄り、対応について検討を行なっている。	職員は接遇の研修会に参加し、利用者の人格の尊重について学び、羞恥心に伴う配慮や言葉使いなどプライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中や様子などから、ご本人の思い等把握し職員間で話し合い希望に応じた支援が行えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の日課は作らず、可能な範囲で個々のペースに合わせて支援を行なえるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の状態に合わせて、理容室に出掛けたり、衣類を買いに出かけたりしている。また、ご家族から情報を頂いたり、生活歴等参考にしながら支援に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえを一緒に行ったり、施設で栽培している野菜等を加えるなど季節を感じられるような食事内容にもしている。	家庭菜園で収穫した野菜を食材にしたり、利用者の希望でジンギスカン、流しソーメン、鍋料理などの献立や外食もあり、利用者はおやつ作りや調理の下ごしらえ、後片付けに携わり、職員は楽しい食事を心がけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じて器を変更したり、食事の時間を調整したり、好みを把握し飲み物を提供している。管理表を作成し、職員全体で把握出来るよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身で行なう方は確認をさせて頂いたり、ガーゼ等を使用させて頂く方等、個々の状態に応じた支援を行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況に応じ、夜間はオムツを使用しても日中は布パンツにしたり、排泄のサインをキャッチし誘導を行なう等、トイレでの排泄の継続に努めている。	個々のパターンの把握を基に、本人の訴えを見逃さず介助しながらトイレでの排泄を支援している。夜間はご本人の寝ている状態に合わせて介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスのとれた献立や、個々に応じた形態等で工夫している。好みに応じて、野菜ジュースやヨーグルトを摂って頂いている。毎日運動の機会を作り体操を行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週三回入浴の日を設けている。一人で入りたい方や仲間と入りたい方等、なるべくご本人様のタイミングで入って頂けるよう支援している。	浴室は広くて、ゆったりとした洗い場と浴槽があり利用者は週3回を目安に入浴している。拒否傾向の時には、職員の交替や好みの入浴剤を使用するなど一人ひとりに合わせて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や身体状況に応じた支援を行なっている。日中は活動休息バランスを整え、メリハリのある生活の支援に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況は利用者ごとにファイルにし、各自で確認出来るようになっている。処方の変更があった場合も連絡ノートで確認できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物に出掛けられる方や、台所回りを自分の仕事場と思いやって下さる方、個々に役割や楽しみのある生活が送られるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の会話の中で希望等を把握し、支援に繋げている。難しい所は、行事を利用したり、ご家族に協力して頂く等で支援に繋がれるよう努めている。	事業所裏手にある家庭菜園周辺の芝生には椅子やテーブルが設置され、遊歩道も整備されて外気浴や散歩を楽しめる環境にある。4月～10月頃まで毎月1回は外出行事が計画され、写真を添えて家族に報告している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力や希望に応じて、金銭を所持して頂いている。買い物等に出掛けた際は支払いまで楽しんで頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の能力に応じて、これまでのつながりを大切に、手紙や電話でのやり取りが行えるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やテーブルに季節を感じられるような花を飾っている。ホールにはソファを用意しゆったりくつろげるようになっている。	玄関と事務室、中庭を中央に両サイドに各ユニットがあり、事業所内は床暖房が整備され、明るい居間には季節感を表わす装飾があり、家具の配置も家庭的で不快な臭いもなく、壁には子猫と子犬の写真が飾られ、その愛らしさに利用者の心を和ませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いてゆっくり一人になったり、仲の良い方同士が会話等できるよう工夫している。一人で腰掛けられるよう椅子も置いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には写真や仏壇、身の回りの物等、馴染みのある物を持って来て頂いている。	全居室に陽が差し込まれて明るく清潔感があり、ベット、クローゼット、冷蔵庫、床頭台、テレビが備え付けてある。在宅当時の家具や日用品、家族の写真が飾られ、地震に備え家具に転倒防止のための器具を取り付けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力に応じて、必要な支援を見極め、安全に自立した生活が送られるよう工夫している。		